

全ての働く人々に安全・健康を  
～Safe Work , Safe Life～



中災防

製造業における職長の能力向上教育の講師養成  
オンライン講座

## C2 事業場における安全衛生 活動(危険予知訓練など)

中央労働災害防止協会

# 「製造業における職長の能力向上教育」の 「実行カリキュラム」の要件

| 科 目   | 範 囲   | 時 間    |
|---|---|--------|
| (1) 職長として行うべき労働災害防止及び労働者に対する指導又は監督の方法に関すること | A 基本項目(必須)<br>(A1) 職長の役割と職務<br>(A2) 製造業における労働災害の動向<br>(A3) 「リスク」の基本的考え方を踏まえた職長として行うべき労働災害防止活動<br>(A4) 危険性又は有害性等の調査及びその結果に基づき講ずる措置<br>(A5) 異常時等における措置<br>(A6) 部下に対する指導力の向上(リーダーシップなど)<br>(A7) 関係法令に係る改正の動向 | 120分以上 |
|   | B 専門項目(選択)<br>(B1) 事業場における安全衛生活動<br>(B2) 労働安全衛生マネジメントシステムの仕組み<br>(B3) 部下に対する指導力の向上(コーチング、確認会話など)  | 必要な時間  |
| (2) グループ演習                                  | C 以下の項目のうち、1以上について実施すること。<br>(C1) 職長の職務を行うに当たっての課題<br><b>(C2) 事業場における安全衛生活動(危険予知訓練など)</b><br>(C3) 危険性又は有害性等の調査及びその結果に基づき講ずる措置<br>(C4) 部下に対する指導力の向上(リーダーシップ、確認会話など)  | 120分以上 |
| 合 計   |   | 360分以上 |

## C2-1 危険予知訓練(KYT)

## 「C2-1 危険予知訓練(KYT)」の演習の概要

### 1 演習のねらい

「B1 事業場における安全衛生活動」において「危険予知訓練(KYT)」として教育を行った内容について、事例演習を通じて、受講者の理解を深めて、自職場において正しく実践できるように、より一層の定着を図る。

### 2 演習の内容

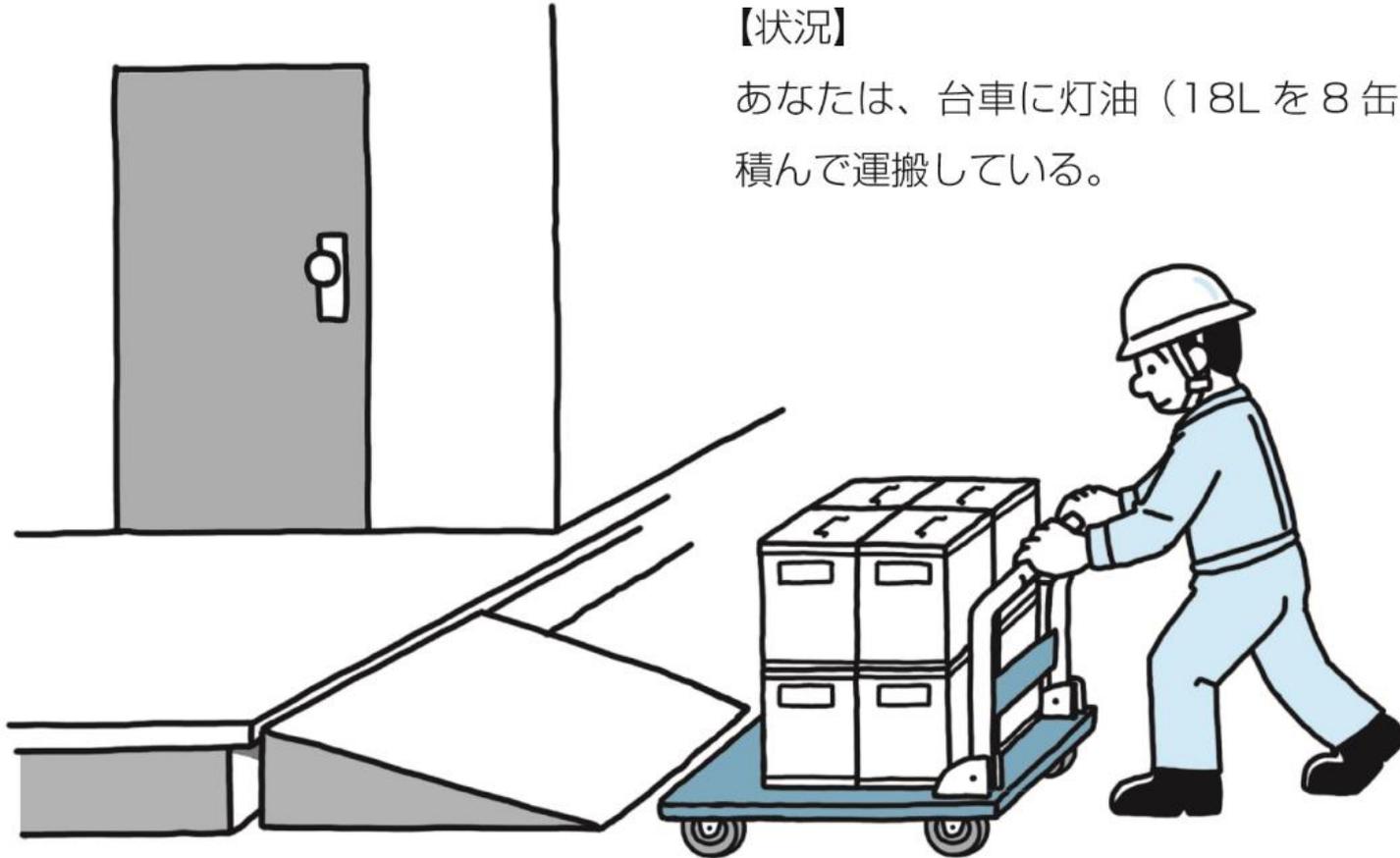
職場や作業の状況から危険を予知し、作業前に、安全を先取りするための危険予知訓練(KYT)の**基礎4ラウンド法**(注)について事例演習を行う。

(注) 「**基礎4ラウンド法**」は、イラストシートを使って、職場や作業にひそむ危険を発見・把握・解決していく危険予知訓練の基本手法で、繰り返し訓練することにより、一人ひとりの危険感受性を鋭くし、集中力を高め、問題解決能力を向上させ、実践への意欲を高めることをねらいとした訓練手法です。

## 使用するイラスト(例)

### 【状況】

あなたは、台車に灯油（18Lを8缶）を積んで運搬している。



## 基礎4ラウンド法の進め方(概要)

| ラウンド   | 危険予知訓練の4ラウンド  | 危険予知訓練の進め方  |
|--------|---------------|---|
| 1<br>R | どんな危険がひそんでいるか | イラストシートの状況の中に潜む危険を発見し、危険要因とその要因が引き起こす現象を想定して出し合い、チームのメンバーで共有する。                     |
| 2<br>R | これが危険のポイントだ   | 発見した危険のうち、これが重要だと思われる危険を把握して○印、さらにメンバーの合意で絞りこみ、◎印とアンダーラインをつけ「危険のポイント」とし、指差し唱和で確認する。 |
| 3<br>R | あなたならどうする     | ◎印をつけた危険のポイントを解決するにはどうしたらよいかを考え、具体的な対策案を出し合う。                                       |
| 4<br>R | 私達はこうする       | 対策の中からメンバーの合意で絞り込み、※印をつけ「重点実施項目」とし、それを実践するための「チーム行動目標」を設定し、指差し唱和で確認する。              |

# 基礎 4 ラウンド法の具体的な進め方①（「第1～第2ラウンド」）

|        |                          |   |
|--------|--------------------------|---|
| 準備     | 1チーム<br>5～6名             | 役割分担<br>リーダー、書記、レポート係、発表者、コメント係<br>模造紙、レポート用紙   |
| 導入     | [全員起立]リーダー＝整列、番号、挨拶、健康確認 |   |
| 第1ラウンド | 現状把握                     | リーダー＝状況を読み上げる   |
|        | どんな危険が<br>ひそんでいるか        | 「危険要因」と引き起こされる「現象(事故の型)」<br>{～なので～になる}{～して～になる}<br>{～なので～して～になる} 7項目以上  |
| 第2ラウンド | 本質追究                     | (1)重要と思われる項目に⇒○印  |
|        | これが危険の<br>ポイントだ          | (2)○印項目⇒絞り込み 1～2項目<br>⇒◎印・アンダーライン＝危険のポイント<br>(3)危険のポイント⇒指差し唱和(チーム確認)<br>リーダー「危険のポイント ～なので～して<br>～になる ヨシ」<br>全員 「～なので～して～になる ヨシ」 |

今回のイラストの事例について、具体的に説明します。

第1ラウンドで、7項目を出し合います。

第2ラウンドでの「○」が4項目、絞り込みにより「◎」が「1」と「5」の2項目になります。

- ① 短いスロープなので、手前から勢いをつけ一気に押し上げようとして、スロープの段差で台車が揺れ、缶が崩れ落ちて蓋が開き、飛散した溶剤が体にかかる。
2. 可動式のスロープなので、もう一押しとスロープの上で踏ん張って、手前にずれたスロープと床の隙間に前輪がはまり、急に止まった台車の取っ手で胸を打つ。
- ③ 平地を歩いてきたままのスピードで押し上げて、スロープの途中で荷の重さで押し戻され、足をはさむ。
4. 左側に落ちそうなので、壁側に寄せて押そうとして、急に開いた外扉きのドアにあたる。
- ⑤ スロープを一気に押し上げようと、小走りで勢いをつけて、台車が傾き、缶が手前にずれ、取っ手との間で手をはさむ。
- ⑥ 小走りで駆け上がりながら押し上げようとして、スロープの傾斜で足が滑り、よろけたところへ戻ってきた台車がぶつかる。
7. 勢いをつけたスロープを登り切ったところ、台車がそのままのスピードで走り、引っ張られて前に倒れる。

# 基礎 4 ラウンド法の具体的な進め方② (「第3～第4ラウンド」)

|               |   |   |
|---------------|---|---|
| <p>第3ラウンド</p> | <p>対策樹立<br/>あなたなら<br/>どうする</p>  | <p>「危険のポイント」に対する具体的で実行可能な対策<br/>⇒各3項目程度(全体で5～7項目)</p>   |
| <p>第4ラウンド</p> | <p>目標設定<br/><br/>私達は<br/>こうする</p>   | <p>(1) 絞り込み(各項目1項目)<br/>⇒※印・アンダーライン=重点実施項目<br/>(2) 重点実施項目⇒チーム行動目標(各1項目)<br/>(3) チーム行動目標⇒指差し唱和<br/>リーダー「チーム行動目標(～する時は)～を～<br/>して～しよう ヨシ」</p> |
| <p>確 認</p>    | <p>(1) 指差し呼称項目設定(各1項目)<br/>⇒リーダー「指差し呼称項目 ○○ ヨシ」⇒全員「○○ヨシ」<br/>(3回唱和)<br/>(2) タッチ・アンド・コール<br/>リーダー「ゼロ災でいこう ヨシ」⇒全員「ゼロ災でいこう ヨシ」</p> |   |

今回のイラストの事例について、具体的に説明します。

第3ラウンドでは、第2ラウンドの◎項目「1」の「危険のポイントに対する具体的で実行可能な対策」として3項目を出し合います。

その上で、第4ラウンドで「※」を1つ付けます。

今回は「前輪をスロープに載せてから勢いをつける」に「※」を付け、チーム行動目標は「スロープを使って台車で缶を運ぶ時は、前輪をスロープに載せてから力を入れよう ヨシ！」とし、最後に、指差し呼称項目を「前輪 スロープ載せ ヨシ！」と設定して、3回唱和します。

| ◎印NO                           | ※印 | 具 体 策                                     |
|--------------------------------|----|---|
| 1                              | ※  | <u>1.前輪をスロープに載せてから勢いをつける</u>              |
|                                |    | 2.手前で止まって腰を入れて押す                          |
|                                |    | 3.片手で上の缶を押さえ、手前から勢いをつける                   |
|                                |    | 4   |
|                                |    | 5   |
|                                |    | 6   |
| チーム行動目標<br>～する時は～して<br>～しようヨシ！ |    | スロープを使って台車で缶を運ぶ時は、前輪をスロープに載せてから力を入れよう ヨシ！ |
| 指差し呼称項目                        |    | 前輪 スロープ載せ ヨシ！                             |

第2ラウンドの◎の項目「5」についても、「危険のポイントに対する具体的で実行可能な対策」を出し合った上で、第4ラウンドで絞り込み、「※」を1つ付け、チーム行動目標を決め、最後に、指差し呼称項目を「缶と取っ手、隙間なし ヨシ！」と設定して、3回唱和します。

| ◎印NO                           | ※印 |  |
|--------------------------------|----|--|
| 5                              |    | 1. 上の缶の手前を片手で押さえる                                  |
|                                | ※  | <u>2. 手前で缶を取っ手側に寄せる</u>                            |
|                                |    | 3. 取っ手を手のひらで押す                                     |
|                                |    | 4  |
|                                |    | 5  |
|                                |    | 6  |
| チーム行動目標<br>～する時は～して<br>～しようヨシ！ |    | 台車に缶を積み、スロープの手前まで来た時は、一旦止まり、缶を取っ手側に寄せてから押し上げよう ヨシ！ |
| 指差し呼称項目                        |    | 缶と取っ手、隙間なし ヨシ！                                     |

最後に、「ゼロ災でいこう ヨシ！」とタッチアンドコールを行い、KYTを締めくります。



## タッチ・アンド・コールの風景



## 演習の目安時間（120分程度）と進め方

| 個人 | グループ | 全体 | 目安時間 | 内容                                       |
|----|------|----|------|--|
|    |      | ○  | 10   | ・唱和「基礎4ラウンド法 開始 ヨシ！」<br>・進め方の説明(導入～2Rまで) |
|    | ○    |    | 15   | ・自己紹介、役割分担、チーム名(ニックネーム)の決定               |
|    | ○    |    | 30   | ・導入から2Rまで(1R7項目以上)                       |
|    |      | ○  | 15   | ・講師などのコメント(各グループの討議内容を観察すること。)           |
|    |      | ○  | 10   | ・進め方の説明(3R～確認)                           |
|    | ○    |    | 20   | ・3R～確認まで                                 |
|    |      | ○  | 20   | ・討議内容の発表(内容の発表⇒指差し唱和)、コメント、講師などのコメント     |

# 演習の指導に当たっての留意事項（１）

## 1 社内での研修

- (1) まず、危険予知訓練(KYT)の基本手法である「基礎4ラウンド法」の正しい進め方の指導を行うことが必要である。
- (2) その上で、「基礎4ラウンド法」を生産現場での危険予知(KY)活動として実施するための手法について指導を行うことが効果的である。  
その際、危険予知訓練(KYT)には、数種類のものがあることから、生産現場での作業方針や作業実態等を踏まえて指導を行うことが必要である。

## 演習の指導に当たっての留意事項（2）

### <危険予知訓練(KYT)活用の3つのレベルと危険予知訓練(KYT)の種類>

#### ①作業指示者レベルのKYT

ア 作業指示STK訓練(参考:S(作業)、T(チーム)、K(危険予知))

イ 適切指示即時KYT

#### ②少人数チームレベルのKYT

ア ワンポイントKYT

イ SKYT(SKY:エス・ケー・ワイ、Short Time KY)

#### ③1人レベルのKYT

ア 自問自答カード1人KYT

イ 1人4ラウンドKYT

## 演習の指導に当たっての留意事項（3）

### 1 社内での研修

(3) 社内での危険予知(KY)活動の取組方針等を踏まえつつ、現在、**実施中の危険予知(KY)活動における課題・問題点**等の提示を各職長に促した上で、その解決のためにどのように取り組んでいく必要があるのか討議することが**危険予知(KY)活動を活性化**させるために大切である。

## 演習の指導に当たっての留意事項（４）

### 2 公募型研修

危険予知訓練（KYT）の基本手法である「基礎４ラウンド法」の正しい進め方に重点を置いて指導することが必要である。

その上で、自職場に戻って、危険予知（KY）活動として実施するに当たっては、作業実態に合わせた危険予知（KY）活動の種類を選択することが必要であるため、職場内の関係者（安全衛生担当者、上司・部下など）と相談して行うように指導することが望ましい。

## C2-2 その他のグループ演習

## C2-2 その他のグループ演習

「C2 事業場における安全衛生活動（危険予知訓練など）」に関するグループ演習については、「危険予知訓練（KYT）」のほかにも、**必要に応じて、「A 基本項目」や「B 専門項目」において教育を行った内容**について、グループ討議や事例演習等を行うことにより、受講者の理解を深めて、より一層の定着を図るために**必要なテーマを設定**して行う。

### その他のテーマ（具体例）

- 1 安全衛生実行計画の作成・実施
- 2 職場巡視
- 3 ヒヤリ・ハット活動
- 4 4S（5S）活動
- 5 化学物質の管理とリスクアセスメント
- 6 災害事例の検討
- 7 異常時等における通報連絡訓練
- 8 職場におけるパワーハラスメント防止対策

ご視聴ありがとうございました。

引き続き、「C3 危険性又は有害性等の調査及びその結果に基づき講ずる措置」の講座をご視聴ください。